

科目ナンバー：(I A) CC UAB 9 705、(I B) CC UAB 9 706、(II A) CC UAB 9 807、(II B) CC UAB 9 808

(III A) CC UAB 9 909、(III B) CC UAB 9 910

<p><b>研究指導 I A、I B、II A、II B、III A、III B</b> <b>(国際地域経済研究領域)</b></p> <p>Doctor Dissertation Seminar(International and Regional Economy)</p>	<p>(教員名)</p> <p>李 捷生、有賀 敏之、金子 勝規</p>	
<p>国際地域経済研究領域 研究指導科目</p>	<p>演習科目</p>	<p>必修</p>
	<p>各 2 単位</p>	<p>2018 年度 Aは前期、Bは後期</p>
<p><b>I 科目の主題</b></p> <p>研究指導は博士論文作成を指導するものである。</p> <p>研究指導 I については、1 年次では修士論文(もしくはリサーチ・ペーパー)で扱ったテーマを展開させ、博士論文としてまとめるにふさわしい研究課題を新たに設定する。課題設定については基本的に院生の自主性が重んじられ、学生は指導教員と相談しながら綿密な研究計画を立てる。</p> <p>院生は6月までに論文テーマと3年間の研究計画(第1次案)を作成する。研究指導 I の主な課題は①当該研究領域の内外における先端的研究の吸収・消化、②研究資料及びデータの収集、③研究手法に関する熟達、④博士論文の部分草稿作成などである。</p> <p>研究指導 II は、研究指導 I を受けていることが前提とされる。学生は6月までに博士論文作成に向けた研究計画(第2次案)を作成する。研究指導 II の主な課題は研究指導 I に引き続き、①当該研究領域の内外における先端的研究の吸収・消化、②研究資料及びデータの収集、③研究手法に関する一層の熟達、④博士論文の部分草稿作成などである。当該年次前期には当該分野における学会誌等に投稿する研究論文を作成し、後期にはレフェリーのコメントを得て、手直しを行い完成させる。その後、2本目の投稿論文に着手し、レフェリーのコメントを得て、手直しを行い完成させる。また、関連する学会で研究報告することが求められる。各教員の担当研究分野は、研究指導 I に同じである。</p> <p>研究指導 III についても、同様に研究指導 II を受けていることが前提とされる。研究指導 III は博士論文の作成指導が主な課題である。当該年次当初に、論文題目、章別編成を作成し、中間報告をしつつ論文の精度を高め、博士論文に結実させる。また、関連する学会で研究報告をし、外部評価を受ける必要がある。</p> <p>各教員の担当研究分野は研究指導 I に同じである。</p> <p>なお、研究指導 I から研究指導 III は同一の教員の指導を受けることを原則とする。</p>		
<p><b>II 授業の到達目標</b></p> <p>本科目においては、上述のように3年間での博士学位論文の完成に向けて、学位論文の各章の原型となる個々の論文の作成の実際的な指導を行う。研究指導 II を終えるまでに、予備論文提出の前提となる2本の投稿論文を完成させることを到達目標に掲げる。</p>		
<p><b>III 授業内容・授業計画</b></p> <p><b>【有賀 敏之 教授】</b></p> <p>多国籍企業と世界経済に関する研究： アジア(日本国内の主要な広域圏を含む)ならびに世界を地域的対象とし、多国籍企業の FDI を伴った現地進出の結果として進出先に新規に形成される一方で、母国からは流出してゆく生産集積・産業集積が、当該地域の経済・社会に及ぼす正負の影響について解明する。併せて投資環境整備・自由貿易圏形成・地域経済統合といった、現代世界経済の全般的な体制の問題に関する解明を進める。</p> <p><b>【李 捷生 教授】</b></p> <p>東アジア労働経済研究： 東アジア地域を分析対象とし、域内労働市場の特質をグローバル化による工業化の発展方式の在り方と関連させつつ分析する。また企業内労働システムの特徴を生産システムの在り方と関連して研究する。そして先行研究の諸成果と問題点を踏まえつつ、現状分析の新しい視角を紹介する。とりわけ近年、国際金融危機の影響を受けて域内輸出産業が低迷し、雇用不安が広がる中、労働市場と労使関係はどう変容しているかということを最新の研究動向に則して検討する。</p> <p><b>【金子 勝規 准教授】</b></p> <p>東南アジア経済研究： 東南アジア地域を対象として、グローバル化の進む当該地域の経済をマクロ・ミクロの視点から分析する。多様な文化的・社会的背景を抱えている東南アジアの国々が、どのように経済共同体、安全保障共同体、社会・文化共同体を形成していくのかについても検討する。さらに、東南アジア域内の経済格差や外国人労働者問題、教育、社会保障などについても考察する。</p>		
<p><b>IV 事前・事後の学習内容</b></p> <p>授業は基本的に受講生の作成した論文の骨子に関するレジュメもしくは論文のフルペーパーに基づく報告であるから、各自の平素の研究は固より、事前の準備が欠かせない。</p>		
<p><b>V 評価方法</b></p> <p>研究論文の作成プロセスおよび、中間報告の内容と水準などを総合的に評価する。</p>		
<p><b>VI 受講生へのコメント</b></p> <p>論文執筆・作成に向けたあらゆる努力を惜しまないことを希望する。</p>		
<p><b>VII 教材</b></p> <p>使用教材については、開講後に受講生と相談のうえ決定する。</p>		